中学生のメッセージ2012

第34回少年の主張三重県大会

発表作品集

● 開催日：平成 24 年 8 月 26 日（日）

● 場　所：松阪市民文化会館

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

はじめに

昭和五十四年の国際児童年を記念して始めた中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、多くの方々に支えられ、本年度で第三十四回目を迎えました。

この大会は、多感な時期にある中学生の少年少女たちが、未来への夢や希望、あるいは日常生活の中での様々な出会いや体験を通じて感じた思いなどを発表することにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解や関心を深めることを目的として実施しています。

本年度は、県内七十三中学校から一一、〇七七名の応募があり、その中から、学校審査、中央審査等を経て、十四名を選考し、本大会を八月二十六日（日）に松阪市民文化会館で開催いたしました。

いずれの発表も中学生らしい純粋な考えや思いを率直に表現し、会場内の同世代の中学生を始め、多くの人に共感と感動を与えました。

この冊子は、三重県大会で発表された十四名の皆さんの発表作品を掲載したものです。

そして、十四名の発表作品とともに「少年の主張全国大会～わたしの主張２０１２～」で内閣総理大臣賞に輝いた千葉県立千葉中学校三年山本恭輔さんの発表作品「リアルに人とつながるということ」を掲載いたしました。

この冊子を一人でも多くの皆様に読んでいただき、青少年育成関係者をはじめ、県民の皆様方が、今日の中学生が何を考え、何を訴えたいのか、将来の夢をどのように考えているのかなどを理解し、今後の青少年の健全育成活動の参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、この県大会を開催するに当たって、開催地区の松阪市青少年育成市民会議の皆様をはじめ審査委員、中学校、各地区の関係機関等、多くの皆様方にお力添えをいただきました。特に殿町中学校・西中学校・鎌田中学校の皆様方には、司会・受付・誘導等の運営協力から実践発表の演奏までのすべてをお引き受けいただき、大会を盛りあげていただきました。ここに改めて心よりお礼を申しあげます。そして、この活動が、今後も広く三重県内に浸透し、心豊かな中学生をはじめとした青少年が育つことを祈念いたします。

平成二十五年一月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長　太田栄子

目　次

●はじめに
公益財団法人三重こどもわかもの育成財団　理事長　太田　栄子　……1

●中学生のメッセージ２０１２（第三十四回少年の主張三重県大会）　発表作品

◆最優秀賞
交通事故を起こさない　伊勢市立沼木中学校　三年　山口（やまぐち）　彩華（あやか）　……4

◆優秀賞
「靴並べ」　津市立一志中学校　二年　落合（おちあい）　沙央理（さおり）　……6
奉仕活動から学ぶこと　セントヨゼフ女子学園中学校　三年　西村（にしむら）　望夢（みゆ）　……8
「私の夢」　松阪市立中部中学校　三年　堀木（ほりき）　和奈（かずな）　……10

◆優良賞
「大きくなったら何になりたいか」の答え　三重中学校　一年　濱田（はまだ）　樹（いつき）　……12
「素直な心」　セントヨゼフ女子学園中学校　三年　田中（たなか）　優衣（ゆい）　……14
言葉を感じる　紀北町立三船中学校　二年　玉置（たまき）　琴音（ことね）　……16
日本の原発再稼動について　明和町立明和中学校　二年　辻（つじ）　真理奈（まりな）　……18
本当の「絆」とは　名張市立赤目中学校　二年　吉田（よしだ）　奈都子（なつこ）　……20

日本語の乱れ　鳥羽市立加茂中学校　三年　佐藤俊祐（さとうしゅんすけ）……22
ケイタイの活用法　四日市市立大池中学校　二年　森裕希美（もりゆきみ）……24
今わたしがするべき事とは　熊野市立有馬中学校　三年　笹之内ゆき（ささのうち）……26
「これからの日本を支える税」　松阪市立大江中学校　三年　小塩敬介（こしおけいすけ）……28
非行に走る少年とその環境　津市立橋南中学校　三年　冨澤采華（とみざわあやか）……30
●地域優秀賞一覧・学校奨励賞一覧……32
●講　評（全体講評・最優秀賞講評）　審査委員長　三重県教育委員会小中学校教育課　課長　鈴木憲（すずきつかさ）……33
●実施要項……36
●審査基準・審査委員一覧……38
●応募数・審査経過……39
●大会写真……40
●「少年の主張全国大会～わたしの主張２０１２～　内閣総理大臣賞」
リアルに人とつながるということ　千葉県立千葉中学校　三年　山本恭輔（やまもときょうすけ）……42
●協賛企業・団体紹介……44

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。

＊＊ 最優秀賞 ＊＊

交通事故を起こさない

伊勢市立沼木中学校
三年　山口（やまぐち）　彩華（あやか）

私は去年、大切な親友を事故で失いました。それは本当に突然のことでした。私と亡くなった親友はその日の朝、事故の直前まで、いつもと同じように一緒に自転車をこいで走っていました。もう少しで学校というところで、親友は「先に行くわ。」という元気な声を残して、私の前を走って学校へと向かいました。そのあと、突然の大きな音に私はびっくりして立ち止まりました。その直後です。私の目の前のガードレールに車が突っ込んだのは。私は何が起こったのか分かりませんでした。とにかく私は目の前の車の人を助けなければと声をかけました。すると思いもよらぬ答えが返ってきたのです。

「自転車の子は大丈夫⁉」

その言葉を聞き、私は親友がこの事故に巻き込まれたんだと悟りました。それからは先生や大人の人が忙しく動き、親友を助けようとしました。私は先生の指示で学校へ行きました。しかし、それからずっとあの一部始終が頭から離れず、授業を受けることができませんでした。ただ親友の無事を願うだけで。

その日の下校前、私たちは、一番聞きたくない言葉を告げられました。そのときは何が起こっているのか分からず、ただ涙があふれるばかりでした。私の周りでも同じように悲しみに包まれている人がたくさんいました。この突然の恐ろしい事故は、多くの人に思いもよらない大きな悲しみをもたらしました。

最近、私はニュースを見ていて、交通事故の話題が、明るい話題よりもずっと多いと感じます。私は親友を失うまで、ニュースを見ても他人事のように感じていました。しかし、親友を失ってからは「あぁ、この事故でも悲しんでいる人がたくさんいるんだろうな。」と考えるようになりました。一日に何件も報道される交通事故のニュースを聞くたびに、私はいつも「なぜ同じようなことがくり返し起こるのだろう。気を付ければなくなっていくものではないのだろうか。」と考えます。

もちろん、事故を起こそうと思って自動車に乗る人はいないと思います。けれど、なぜ人は気を付けようという意識をなくしてしま

うのでしょう。飲酒をして運転してしまうと事故を起こす危険性がとても高くなるので法律でも禁止されています。それでも飲酒運転をする人がいるというのはなぜでしょうか。

私はそういう人は本当の事故の恐ろしさ、悲しさを知らないんだと思います。以前の私のように他人事でしかないのだと思います。事故の被害者はもちろん、加害者になる恐ろしさは、体験しないと本当には分からないのは当然です。しかし、それを分からないで終わらせてはいけないと思います。

私たちの学校では、あの恐ろしい事故のあと、速度減速を促す看板が設置されたり、毎朝先生方が立ってくれたりしています。ですがあの事故が起こった場所は見通しが悪く、危ないと思うことが以前にも何度かありました。けれど安全のために対策をとってほしいということを周りの人や先生に言わなかった私たちも意識が低かったのではないかと思います。もっとしっかり交通事故に対して考えておけばよかったと思います。

一人ひとりが、交通事故は他人事ではないという意識を持つ。そうすれば少なくとも、スピードの出しすぎや飲酒運転などによる事故は防ぐことができると思います。何よりも、「自分は事故を起こさない。」という強い気持ちを持つことが大切です。

私たち一人ひとりが意識を変えて、この世界から交通事故で悲しむ人がいなくなるようにしていかなければならないと私は思います。

●部活動や学校外活動
ソフトテニス部

●好きな科目
数学

●好きなことや好きなもの
音楽鑑賞

●将来の夢
カウンセリングの先生

＊＊ 優秀賞 ＊＊

「靴並べ」

津市立一志中学校
二年　落合（おちあい）　沙央理（さおり）

以前まで、私は気になったことや分からないことがあると、すぐ人に尋ねていました。本や新聞を読んでいても、その次の文章から理解を深めようともせず、面倒だからといって辞書を引こうともしませんでした。

尤も私が人に何かを尋ねるのは朝です。小学校低学年の頃、新聞を読んでいればちょっぴり大人になったような気分になれるからと両親の真似をして新聞を読んでいました。もちろん内容はさっぱりです。しかし、私には出すことができない答えをすぐに出してしまう私の父が目の前にいるとわかっていると、「考えてみよう」ではなく「すぐに聞いてしまおう」となってしまいます。納得のいく答えがもらえたり、「いい加減に辞書を引きなさい。」と注意されたりしました。今まで父にあまりに多くの質問をしたので、全て覚えきれませんでした。というよりは、答えが聞けたことで満足感が得られたので覚えておこうとは思いませんでした。具体的な例を使って、丁寧に説明してもらったのにあっという間に忘れてしまうなんて何だか少し悪いなと今になって思います。

けれど、一度は話した事を私がもう一度尋ねない限り、同じ説明をしない父が繰り返して言う言葉があります。

それは「脚下照顧」という言葉です。まずは実践として靴並べをするようにと言われました。初めて聞いたときは、どういう意味かよくわかりませんでしたが、靴を並べるという具体的な実践を通してようやくその意味するところがわかるようになってきました。靴を並べることにより、自分の中で変化がもたらされたと感じます。友達との会話でも、思いついたことをすぐ話すのではなく、自分を顧りみることで相手の気持ちを考えることを意識するようになったことです。小さな習慣を積み重ねることで徐々に自分を見つめること、それが自分自身を顧りみることとなり、更に相手の気持ちを考えられるようになったのだと思います。

このような小さな積み重ねにより、良い習慣を身につけていき、人として大切なもの、相手を思いやる心が自分の中でつくられていくとわかりました。ニュースで報道されるような大きな問題はすぐ

に内容を理解して答えを出すなんて私にはとても無理な話です。しかし、自分のことであれば日々の積み重ねから工夫できるのではないかと考えます。

今の私を見つめると、困っている人にすぐに手を差しのべられないという良くない点に気付きました。これが自分らしさとなると悔しいです。だから今よりも人に優しくありたいです。人に好かれる為ではなく、自分の芯を築いていき相手を理解できるような自分に成長させたいと強く思います。「脚下照顧」をすることで出た私の目標です。目標で終わらせないように、時々、自分の足元を見ながら成長していきたいです。

父から「脚下照顧」を教えてもらい、勧められた靴並べを行いました。大きな話ではありませんが、これが基となって私の考え方に変化が生まれ、はっきりとした目標も立ちました。もしも靴並べをしなかったら、今までの私が持っていた考えの傾向はきっと変わらなかったでしょう。自分の変化のきっかけにふれ、またその変化に気付けたことが嬉しいです。それに靴並べという動作は少しではありますが身だしなみが整います。靴並べを続けていると今までに無かった発見と、自分を見つめ直すきっかけになりました。「ただ靴並べをするだけじゃないか」と感じた人もいるかもしれません。けれど私は靴並べとは自分自身を向上させるものだと思います。だから私は今日も靴並べをして、自分自身を見つめます。

●部活動や学校外活動
卓球部
●好きな科目
英語・国語
●好きなことや好きなもの
読書・水泳
●将来の夢
公務員

＊＊ 優秀賞 ＊＊

奉仕活動から学ぶこと

セントヨゼフ女子学園中学校
三年　西村望夢（にしむらみゆ）

私たちの学校では、積極的にボランティア活動を行っています。例えば、私自身がスポンサーを集め、私たちが歩いた距離に応じて募金をしていただくウォーカソンは、長年続けてきた学校行事の一つです。私はこのようなボランティア活動を通して、さまざまなことを学ぶことができました。

昨年、二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災。一瞬にして建物がくずれ、津波によって流されてしまいました。住む所や食べる物だけでなく、人の命も奪われてしまったのです。そのことをテレビを通して知った私は、同じ国の映像だとは信じられないほど、何が起こったのかも分からず、ただ怖いと感じるだけでした。

しかし、翌日学校に行くと、すでに先輩たちは行動していたのです。すぐに生徒主体の被災地への募金活動が学校内で始まりました。

それを目の当たりにした私は、できることは少ないけれど自分も役に立ちたい！と思いました。そして、ちょうど同じころ私たちの学年を中心とした被災地への支援活動が始まりました。

夏には、殺虫剤や蚊取り線香と共に、私たちが絵を書いた手作りのうちわを送りました。うちわ作りをしている時、私のすることで本当に喜んでくれるのかな、相手の方にどう思われるかなととても不安な気持ちになりました。しかし、うちわを受けとってくださった岩手県山田町の保育園からあたたかい手紙と写真が送られてきたのです。そこには、私たちが作ったうちわを持った笑顔の子供たちが写っていました。これを見て、私でも役立つことができた、作ってよかったという気持ちになりました。また、この手紙によって震災後の様子を知り、先生も幼い子供たちも頑張っているのだから、自分も精一杯支援をしていきたいと改めて思うようになりました。

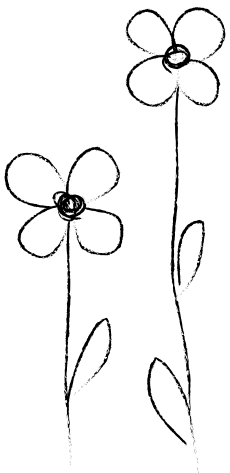
そして昨年の冬には、クリスマスカードを作りました。東北の方に少しでも気に入ってもらえるよう一枚一枚、心を込めて丁寧に作りました。私が作ったカードの一枚は、山田町の保育園の先生へ送りました。

数日後に、その先生から私宛てに手紙がきました。まさか先生からお手紙をいただけるとは思ってもいなかったので、いただけただ

けでも感動しましたが、そこには「これからも、あなたをはじめとし、沢山の方々が私たちのことを見守っていてくれているという気持ちで前へ進んでいこうと思います。」と書かれていました。とても嬉しいと思うと同時に、私がしたことがその先生にとって少しは励みになったのかなと思うと、本当にしてよかった、もっと自分にできることをしていきたいと強く思いました。

　このことがきっかけとなり、私は将来、人の役に立ち、喜んでもらえる大人になりたいと思い、医師になるという夢ができました。私がもし医師になれたら発展途上国で活動し、幼い子供からお年寄りまでたくさんの人を笑顔にして、一人でも多く幸せにしたいと思います。

　私のように、自分がしても大した力にはならないのではないかと思っている人もぜひ積極的にボランティアをしてみてください。募金をしたり、町をきれいにすることもボランティアの一つです。そして、自分がすることによって必ず誰かに喜んでもらえたり、元気を与えられるはずです。このような活動から自分が大きく成長する一つのきっかけになったり、人と交流する機会が増えるかもしれません。私のように夢を見つけることもできるかもしれません。これから私も、自分のためにも相手のためにもなるようなボランティアをしていきたいです。また、東日本では少しずつ復興してきていますが、まだたくさんの力が必要だと思います。直接、東北に行けなくても、スーパーなど身近な所にある募金箱が、善意と絆によって少しでもたまると、復興に繋がります。一日も早く復興することを願ってこれからも活動を続けていきます。



●部活動や学校外活動
　バレーボール部
●好きな科目
　数学
●好きなことや好きなもの
　音楽鑑賞
●将来の夢
　医者

＊＊ 優秀賞 ＊＊

「私の夢」

松阪市立中部中学校
三年　堀木和奈（ほりきかずな）

私には将来の夢があります。それは、保育士になることです。この夢は私が保育園に通っているころから変わっていません。なりたいと思ったきっかけは単純で、好きだった先生に憧れたからです。他の職業が気になったこともありましたが、あるテレビ番組を見てから、夢を必ず叶えたいと思うようになりました。

私が小学校高学年か中学生になりたての時、いじめで自殺をしてしまった自分と同じぐらいの年の女の子のニュースを見ました。そのニュースを聞いた時、とても悲しい気持ちになるとともに、命を絶つことになってしまったことに対する怒り、そして決して人事ではないという思いになりました。その番組では、『どうして、いじめや自殺者が増える一方なのか。』という問題について話し合いがされていました。その中で、こんな話をされた方がいました。

「保育園などに通う小さな時からすでに、いじめの原点が始まっているということ、色んな人との関わりをその時に学べないまま上に進学するから、上手く付き合いができずに、自分を守るために人を傷つけてしまう。それがいじめの原因になってしまうということ、だからその原点を改善しない限りいじめはなくならないし、自殺者が減ることはないのではないか。」

その言葉がまるで、自分の将来に向かって言われているような気がしました。小さい時に学んだことや言われたことは将来に影響することが分かり、改めて保育は、責任のある仕事だと実感しました。そして、その原点が生まれることがないように少しでも関わっていきたいと思い、保育士になろうと思いました。

例えば実際に、実験として小さい子どもに赤いボールを見せてボールの色は『青』と教え、青いボールを見せて、ボールの色は『赤』と教えたそうです。どの色が赤でどの色が青なのか分からない子どもは教えられたように覚えます。大きくなってから聞くと、やはり教えたように答えたそうです。そして、それを直すにはかなりの時間がかかったという話を聞いたこともあります。その話のように何も知らない子ども達が人と人との関わり方を間違ったように覚えてしまえば、大きくなった時に困るのはその子自身で、直すの

はとても難しいはずです。そんなことから、いじめに発展してほしくないと私は思います。

保育士を夢みる私ですが目指す理想があります。優しい、周りが見えるなど当たり前のことだけでなく、子ども達が人と人との関わりを学べるように、自分から関わっていけるそんな先生になることです。正直、どうやって関わっていけばいいのか、関わり方を伝えていけばいいのかまだよく分かりません。でも、いじめの原因の一つとなっている『個性』を認め合うことは大切なことだと思います。十人十色という言葉があるように、一人ひとりに違いがあり、個性があります。その違いや個性を受け入れ、認めることができるくらいの大きな心を持った人にならないといけないと思います。簡単でないことはもちろん分かっているつもりです。それでもそれが出来ない限り、この世界からいじめ、自殺者がいなくなることはないのではないでしょうか。でも今の自分が受けいれられるほどの大きな心を持っているのかと言われても、自信を持って「はい」と答えることはできないと思います。今、頑張っている真っ最中だからです。私の心がまだまだ小さい為に悪口を言ってしまうことや、人に注意することさえできない時もあります。ですが、これを機会に心を改め、もう一歩前へ進みたいです。悪いところに気付いたら、その倍の数だけいいところを見つけるようにしています。そうやって大きな心を作っていきたいです。そして伝え方を見つけ、体を張って子どもに伝えていけるようになりたいです。一人で頑張ってもいじめや自殺者がいなくなることはないと思います。それでも私は、今より少しでもいじめをしてしまって苦しむ人、いじめられて苦しむ人、そしてたえきれず自殺してしまう人が減るような努力ができ、そしてこの作文を有言実行できる、そんな先生に私はなりたいです。それが私の夢です。

●部活動や学校外活動
バレー部
●好きな科目
体育・音楽・英語
●好きなことや好きなもの
バレー、クライミング、ピアノ、スイーツづくり
●将来の夢
保育士

＊＊ 優良賞 ＊＊

「大きくなったら何になりたいか」の答え

三重中学校
一年　濱田　樹

僕は、大きくなったら何になりたいかという質問に答えることが苦手でした。弟は、たくさんお金のもらえる仕事がしたいと答えたり、サッカー選手と答えたり、コックさんと次々に答えていたけど、僕は深く考えすぎて、なかなか答えが見つかりませんでした。次々と答える弟がうらやましいと思う時もありました。答えがでないので、「夢がないのっ。」と言われることもあったけど、仕事についてよく分からなかったから、何になりたいのかも出てきませんでした。けれど、やりがいのある仕事をしてみたいとは思っていました。

そして、小学生の時に仕事について調べる宿題がきっかけで、やってみたい仕事がひとつできました。それは、父親の仕事です。

僕の両親は、介護施設を営んでいます。父は、理学療法士です。僕が学校が休みでデイサービスの仕事を手伝っていたとき、あるおばあさんが僕に何度も教えてくれたことがありました。

「あなたのお父さんのおかげで、歩けるようになったし、毎日が楽しくなったのよ。」

と言っていました。でも、おばあさんは僕のようにすたすたとは歩けてはいなかったし、耳も聞こえていないようでした。さらに、一人で暮らしていると言っていたので、僕には楽しいとはとても思えませんでした。でも、おばあさんは、本当にうれしそうな顔をしていました。僕の心にも、お父さんのおかげで、と言われた言葉が、とてもうれしかったです。

父親の仕事である理学療法士の内容をインターネットで調べると、ケガや病気などで身体に障がいのある人や障がいの発生が予測される人に対して、座る、立つ、歩くなどの回復や維持を目的に、自立した日常生活が送れるよう支援する仕事とありました。父は曲がりにくくなった膝を曲がりやすいようにストレッチをしたり、筋力を伸び縮みしやすいようにしたり、筋力や関節の動きを考えながらの仕事だと言っていました。母に聞くと、

「お父さんの手は、魔法の手かな。」

と言っていて、僕は人の手で治療できることがすごいと思いました。そして、人の手は心にもすごい力を与えていると思いました。なぜ

なら、僕に教えてくれたあのおばあさんはたった二、三歩だけど歩けたことがうれしくて、その一歩が心に元気を与えて、毎日が楽しいと言っていることに気付いたからです。

自分の手で、困っている人が喜んでくれることがあるということがわかったとき、僕は理学療法士になりたいと思ったし、父親よりかっこいい理学療法士になりたいと強く思いました。父親よりすごい理学療法士になり、希望を持てる体にする仕事がしたいです。

そして、だれもが心に持っている不自由がない世界にしたいです。みんなが、笑顔になれるような世の中にしたいと思いました。

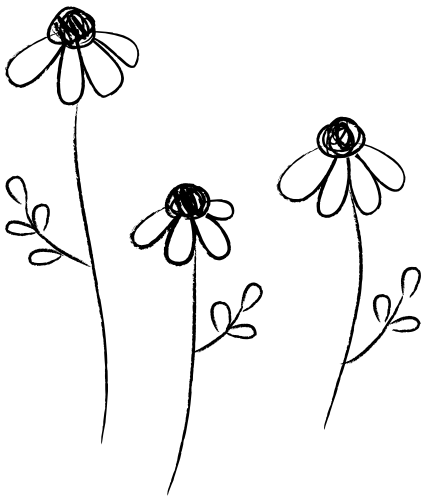
デイサービスで出会ったおばあさんが、

「若いころは苦労して、もういつでもお空へ行ってもいいと思っていたけど、最後にこんな楽しい時間がまっているとは思わなかったわ。90歳の体でも、一生けんめいに長持ちさせようとしてくれる真剣な先生に出会えるとは本当に感謝でいっぱい。100歳まで生きたいわ。」

と言っていました。父のかっこいいところは真剣にとりくむことだと思いました。それが相手を元気にさせる魔法なのかもしれないです。

「大きくなったら何になりたいか」、僕の答えは、理学療法士になることです。そして、デイサービスで出会ったあのおばあさんに、僕の夢をいつか伝えたいと思います。

●部活動や学校外活動
サッカー部
●好きな科目
数学
●好きなことや好きなもの
チェス
●将来の夢
理学療法士



＊＊ 優良賞 ＊＊

「素直な心」

セントヨゼフ女子学園中学校
三年　田中優衣（たなかゆい）

みなさんは借りた物を壊してしまった時、素直に謝ることができますか。

小さい頃、テレビで見た「サザエさん」にこんな話がありました。カツオがお父さんの植木鉢を割ってしまい、そのことを素直に言わず、隠そうとして、結局波平に見つかって叱られる、という話です。他にも、正直に謝らず、後で後悔し、反省するという内容は多かったと思います。私は「もっと素直に謝ればいいのに。」と思いながら見ていました。素直に謝ることの大切さについて、今でも学校での道徳の授業などで、学んだり、考えたりしています。だから自分でもよく分かっているつもりでした。

先日、私は友達にＣＤを借りました。お母さんと私が好きな曲でした。しかし、お母さんが開けようとしたその時、ＣＤのケースのすみを割ってしまいました。その一瞬で私の頭の中は真っ白になってしまいました。そばで見ていたお父さんもパソコンを動かす手を止めました。

友達に何と言えばいいのだろう。悩んでいると、お母さんは、「ごめんね。ケースを新しく換えて、お友達に『ごめんなさい。』と素直に謝ろうよ。」と言いました。お父さんも、「そうだね。」とうなずきました。私は納得できませんでした。新しいものを買ってきて、壊れる前の状態でそのまま何も言わず友達に返したかったのです。でもお母さんは、

「もし、言わずに返したとしても、私だったら言わなかったことを後悔すると思うなあ。」と言い、また、お父さんも

「もし、自分だったら買い換えてまでしてもらって、かえって悪かったなあって思うだろうなあ。」と言っていました。さらに、お母さんは、

「それがビジネスの世界にも続いているんだよ。誰にでも失敗はあって、素直に謝って誠実に対応することによって、お客さんの信頼を得て、優良な企業となっていくのよ。」

と真剣な顔で言いました。なるほど、もし私が逆の立場になった時、素直に相手に言ってもらった方が嬉しいし、これからも相手を信頼

できます。誰だってちょっとした失敗や間違いはあります。でも、そこで素直に謝ることができる人は、人との絆、信頼関係はもっと深くなっていくと思いました。いざとなると理屈では分かっていても、素直になれない自分であることに気づきました。

私は最近見たニュースを思い出しました。ある政治家がお金のことで裁判になり、秘書も逮捕されるという事件がありました。国民には本当のことをはっきり言わず、裁判の結果は無実でしたが、「きわめてグレーに近い無実」と言われていました。無罪になったとはいえ、その姿は自分を守るために正当化し、国民にも謝らず、結局は国民の信頼をなくしているように私には見えました。

私は、大人になっても、また、どんな地位や名誉があったとしても、常に謙虚に、素直に謝り、誠実であるべきだと思いました。それは、信頼と絆を深めていき、人とのネットワークを広げる大切なものだと思うからです。お母さんのいう「信頼」という言葉が少し分かってきました。

だから、私は友達にＣＤのケースが割れてしまったことを素直に謝ろうと決意しました。

これからもずっと素直な心を頭で考えるだけでなく、「誠実さ」をモットーにどんどん行動に表していこうと思いました。そうして、誰からも信頼してもらえる人になっていきたいです。また、それは人から見える外見の姿を磨いていることより、もっと素敵な自分磨きではないでしょうか。

今回の失敗で逃げずに、誠実に対応することを経験し、大切なことを学ぶことができました。

素直な心をもって信頼の和を広げてまいります!!

●部活動や学校外活動
ＹＭＧ（奉仕活動部）
●好きな科目
英語・国語・美術
●好きなことや好きなもの
韓流スター、カラオケなど
●将来の夢
鍼灸師

＊＊ 優良賞 ＊＊

言葉を感じる

紀北町立三船中学校
二年　玉置琴音（たまきことね）

みなさんは、毎日の生活を誰と送っていますか。誰と暮らしていますか。

私は今、家族三人で暮らしています。父と弟と私です。

父は五年ほど前から、祖母などにも助けてもらい一人で私たち弟姉を育ててくれています。仕事も子育てもこなしている父は毎日大変です。そんな忙しい父ですから私が帰った時には、家には誰もいません。誰もいない部屋は、静かで暗く広く感じます。とてもさみしいです。仕方がないのはわかっていても、やはりさみしいです。

ところがある日、父が早く帰ってきていて私が

「ただいま」

というと

「おかえり」

と、声が返ってきました。いつもは静かでさみしい部屋から父の声が返ってきたことに、私はビックリしました。同時に、とてもうれしくて思わず涙が出ました。そして一瞬でとても心が温かくなりました。

一人であの暗くて広くて静かな部屋に帰った昨日の私は、「きっと明日もそうだろう」と思っていました。さみしくても仕方のないことだと思っていました。ところが、その部屋に明るい電気が灯っていて、父が晩ごはんを作っていました。

父の作る晩ごはんは久しぶりでした。いつもは祖母のごはんを一人で食べていましたがその日は違っていて、家族三人で父の温かいごはんを食べました。おいしくて温かくてうれしかったです。

その日、私は、

「おかえり」

と言ってもらえたことでとても幸せになりました。その一言で心が温かくなりました。言葉の力だと思います。言葉ってすごいと思いました。

そして、小さかった頃のことを思い出しました。ランドセルを背負って家に帰り、

「ただいま」

と言うと、母のやさしい

「おかえり」
という声が返ってきました。でも、もうそんな母もいません。私が、小学校三年生の時に病気で亡くなりました。だけど、今でもいろんなことを思い出すことができます。声や匂いや温かさはきっと一生忘れないと思います。幼い頃の私を
「がんばれ」
と励ましてくれました。その母の声が心にあれば、私はこれからどんな壁にぶち当たっても負けないと思います。私を応援してくれた
「がんばれ」
という母の声、母の言葉を今も私は感じることができます。そして、きっとこれからも
「もう少しだけ、がんばろう」
と思えると思います。

みなさんは、こんな風に誰かの言葉を感じ、勇気づけられたことはありませんか。

私は、父や母に
「ありがとう」
と感謝しています。その気持ちを今は上手く伝えられません。でも、そう想っているだけでいつか伝わると思います。想っていれば自然に言葉や行動に表れてくると思います。そして、その自然に出た言葉を相手が感じ取ってくれると思います。

これから先、とても不安で辛いときもあると思います。でも、誰かに、
「大丈夫だよ」
と言ってもらえばきっと頑張れると思うし、泣いている時は誰かが、
「大丈夫？」
と心配してくれると思います。その言葉を感じて、頑張って生きていきたいです。人は、誰かに言葉を伝えることによって言葉以外のいろんなものを伝え、そして相手も何かを感じるのだと思います。私のまわりの人にも、言葉を大切にしてほしいし、言葉でいろんなものを伝えていってほしいです。

誰かが自分を支えてくれて、言葉をかけてくれる。そのことで私は何でも頑張れると思います。そして、いつか私も誰かを支えることができたらと思っています。

●部活動や学校外活動
ソフトテニス部
●好きな科目
体育
●好きなことや好きなもの
読書・スポーツ全般
●将来の夢
人を笑顔にできる人になりたいです

＊＊ 優良賞 ＊＊

日本の原発再稼動について

明和町立明和中学校
二年　辻（つじ）　真理奈（まりな）

私は今、疑問に思うことがあります。それは、日本の原発再稼動についてです。福島の第一原発は東日本大震災で大きく崩壊しました。そして、人間の力では防ぐことができない程の放射性物質が放出されました。震災前までは絶対安全だといわれていた原発は、現在最も危険だといわれています。

私は原発の再稼動に反対です。震災後、ドイツは二〇二二年までに全ての原発を停止することを決めました。スイスでも、二〇三四年までに全ての原発が廃炉になります。それなのに、なぜ実際に被害を受けている日本は原発を再稼働させるのか、疑問でいっぱいです。もし、原発を再稼動させても同じことが繰り返される可能性が高いと思います。

例えば、今後数年のうちに必ず起こるといわれている東海地震、東南海地震、南海地震、または、その三連動地震が起きたとします。その地震は広範囲で被害があると思います。そんな状況の中で、今回の福島第一原発のような大きな崩壊が、静岡の浜岡原発でも起こるとどうでしょう。大量の放射性物質が東海地方、中部地方、関東地方にまで飛びかうかもしれません。

私は震災後のテレビで、何年も前のチェルノブイリ原発事故の特集を見ました。放射性物質による被害は、その時だけでなく、二十六年たった今も残っています。原発から三〇キロメートル圏内は、強制移住区域とされ、いまだに人が住むことができません。しかし、そこで被爆した人々は、移住した先でも病気や体調の不良に苦しんでいるのです。

七月五日、福井の大飯原発三号機が、二五日、四号機が再稼動されました。テレビで見たとき、絶対安全だといっていて、疑問に思いました。なぜなら、安全ではないから、今回の福島第一原発のような事故が起こったからです。

私たちは、原子力発電以外の発電方法で、電力をまかなっていくべきだと思います。私が調べた資料によると、石炭や天然ガス、石油を原料とした火力発電量が約七割、原子力発電量が約二割、その他の発電量が約一割となっていました。火力発電とその他の発電方

法で全体の約八割をしめているのなら、原子力発電を止めても、残りの約二割をまかなっていくことはできると思います。

この間、雷で停電したことがありました。夕方の六時頃で、家にいたのは私一人だけでした。外がだんだんと暗くなっていくにつれ、心配になってきました。停電になっていたのはわずか数時間のことでしたが、とても不安で怖かったです。私はその時初めて、自分がいかに電気に頼っていたかを実感しました。電気は私たちの生活になくてはならないものです。しかし、だからこそ、私たちみんなが団結して節電を心がけ、できるだけ消費電力を減らして、少ない電力でも暮らせる社会にしていかなければなりません。

私は震災後から家族と協力して、使っていない電化製品のプラグを抜いたり、エアコンを二十八度設定にしました。また、電気をつけっぱなしをしないなど、小さなことからですが、節電を心がけて生活してきました。この震災で、今までの生活を見直し、悪いところを変えていこう、と考えることができました。

日本の国も、まず、国民全体の命と健康を守ることをしっかり考えて、危険なことがない、安全で豊かな社会をつくるための方向を示してほしいと思います。そのためにも、私たち国民一人ひとりが、自分ができることを考え、自分の意見をしっかり持ち、声をあげていかなければなりません。被災地の一日も早い復興と、みんなが笑顔で過ごせる社会を目指して、私も努力していこうと思います。

●部活動や学校外活動
ソフトテニス部
●好きな科目
音楽・社会
●好きなことや好きなもの
音楽・読書
●将来の夢
美容師

＊＊ 優良賞 ＊＊

本当の「絆」とは

名張市立赤目中学校
二年　吉田奈都子

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。

あれから一年半ほどが経ち、テレビで地震について報道される事も少なくなってきましたが、深刻な問題は今もまだ残っています。例えば、建物が崩れた時などに出来たがれき受け入れの問題です。私は、テレビでその事について特集されているのを見て、とても腹立たしく思いました。

震災が起きた当時は、「絆」や「助け合い」などと沢山の大人達が言っていたにもかかわらず、がれきの受け入れの事となると、手のひらを返したように、反対と言い出したのです。その大人達は、がれきを燃やして出た煙から放射能が飛び散り、自分達の体に危険が及ぶと言っています。けれど、政府はがれきに残っている放射線量は食べても問題ない程の微量だと発表しています。反対を訴える人達が沢山増えると、永遠にがれきがなくなる事もなく、復興も出来ません。復興が進まないと、日本の経済も良くなりません。結局は、自分達の身に返って来るのに、自分の事しか考えていないんだなと思いました。もし、自分の身に同じ事が起こったら、きっと助けて欲しいと思うはずです。がれき受け入れに反対された被災地の人達は、悲しい思いをしていると思います。また、がれきだけではなく、原子力発電所の事故で福島の人達が差別されていると聞きました。近づいただけで放射能が付くと言われたり、福島ナンバーの車は自分の街に入って欲しくないと言われたり、国民を引っ張っていくはずの大臣までが、差別のような発言をしたりしています。

子供のお手本となる大人がこんな事をしていて良いのだろうかと思いますが、そんな大人に反発ばかり書いている私も、実は人の事が言えないのかもしれないなとも思いました。中学校の授業でも、「誰とでも仲良くしよう」や「マイナス言葉をなくそう」などと取り組んできましたが、私は本当に実行できているのかなと思いました。私も「マイナス言葉はなくした方が良い」などと言ってきましたが、自分が実行出来ていなかったらそんな大人達と一緒になってしまいます。プラス言葉をたくさん使うのは簡単ですが、マイナス言葉を使わないというのは、とても難しい事だと思います。私も、

普段の生活を振り返ると、たくさんのマイナス言葉を使ってしまっています。今まで、そのような事を何も考えていませんでしたが、今回のがれき受け入れについてのニュースを見て、自分の言動や行動に責任を持てるような、大人になりたいと思いました。それは、とても難しい事だと思いますが、相手の事を思いやる気持ちを持って行動していく事が最初の一歩だと思うので、心がけていきたいです。

震災がれきを受け入れている自治体について調べてみると、三重県は受け入れに協力をする方向であるという事がわかり、嬉しく思いました。でも、私が住んでいる名張市は焼却施設が市内にないため、受け入れが出来ないそうなので残念です。

東北三県で出た、がれきの量は二千万トン以上あるそうです。想像もつかないほどの量ですが、宮城県では十九年分に相当するがれきの量だそうです。これらのがれきを処理するには、被災地だけでなく、少しでも多くの自治体の協力が必要だと思います。協力する自治体が増えて、がれきの処理が進むといいなと思います。

地震で、沢山の被害が出て、つらい事や悲しい事もありましたが学んだ事も多くあります。その事を忘れずに周りの人を思いやって、行動できる人になりたいです。

●部活動や学校外活動
ホームメイキング部
●好きな科目
理科
●好きなことや好きなもの
音楽鑑賞・手芸・書道
●将来の夢
公認会計士

＊＊ 優良賞 ＊＊

日本語の乱れ

鳥羽市立加茂中学校
三年　佐藤俊祐

「全然楽しかった。」という表現や間違った使い方の敬語など、日本語の乱れを感じさせる言葉を最近よく耳にします。

「全然」の使い方を間違っている人は、正しい言葉の使い方ができなくなっている日本でも、特に多いと思います。本来は「全然」という副詞を使った場合、副詞の呼応として「全然・・・ない」のように最後は否定の形で終わるはずです。これは国語の文法の授業で学習するはずです。ところが、テレビなどでは、出演者が「この料理は全然美味しかった。」のように終わりが肯定の形で話している場面をよく見ます。テレビで間違った使い方をすると、それを視聴している人たち、特に小中学生や高校生にいたるまで間違った使い方を覚えてしまいます。こうしていつの間にか間違った使い方が定着してしまうように思います。こうしたささいなことの積み重ねが正しい日本語の使い方が失われ、「日本語が乱れている」と言われるようになった理由だと感じます。

この「全然・・・ない」の場合、僕の学校の生徒同士の会話の中でもよく使われています。肯定の形で使うのなら、「全然」ではなく、「とても」を使うのが正しいはずです。

二年生の時の国語の授業でこの「全然」の使い方を学習しました。その時、多くの生徒が間違った使い方をしていることに気付き、今は正しく使おうとしています。間違った使い方をしている人は恥ずかしいことだと気付いてほしいです。

こうした間違った言葉の使い方だけでなく、語句の意味を間違って覚え、それを日常会話で使っている人も多いと僕は考えます。

例えば、「姑息」の本来の意味は、「一時しのぎ」という意味です。しかし、最近行われた日本語の調査では、本来の意味ではない「ひきょうな」という意味と答えた人が全国で七割いて、意味を正しく答えた人は二割にも満たなかったそうです。

「最近の若者は日本語の使い方がなっていない。」と言われていますが、この調査の結果を見ると年配とか若者とか関係なく、多くの世代でもう一度日本語の勉強をしたほうがよいと思いました。僕も会話の中で間違った意味、使い方をしないように、意味のわからな

い語句や正しい使い方を辞書で調べたりして学んでいきたいです。

技術が発達して今の人々はパソコンなどを使い、文章を書くことが増えています。昔のように手書きで文章を書くことが少なくなってきています。そのため漢字について読めるけど、書けないという人が増えているように思います。本来は漢字で書くべきところを平仮名で書いている人が増えているのは問題だと感じます。

こうした間違った言葉の使い方や語句の意味もですが、今の日本語の中で一番乱れているのは、「敬語」の使い方だと僕は考えます。

先日、レストランに食事に行った時、店の人が「どちらをいただきますか。」と聞いてきたことに僕は違和感を覚えました。家に帰ってから調べてみると、正しくは「どちらを召し上がりますか。」と聞くべきだということがわかりました。

敬語は相手の立場や地位を尊重し、敬意をはらうために使ったり、初対面の人に使う言葉です。しかし、時代の流れや絶対的な身分制度にしばられない民主主義の世の中になり、敬語を使う慣習が崩れてしまい、大人になっても正しく敬語が使えない人が増えてしまいました。日本語の敬語は、英語とは違い、文法のレベルまで細かく整理されていてとてもていねいで美しい言葉です。

大切な文化である日本語を僕たちが正しく使い、守り通して、未来へ正しい日本語を伝えていかなければならないと思っています。

●部活動や学校外活動
野球部
●好きな科目
社会
●好きなことや好きなもの
映画鑑賞
●将来の夢
公務員

＊＊ 優良賞 ＊＊

ケイタイの活用法

四日市市立大池中学校
二年　森（もり）　裕希美（ゆきみ）

昨年、中学生のおよそ60％が携帯電話を持っているとニュースで聞きました。私も中学生になりケイタイを買ってもらいました。

ケイタイは大変便利な道具で、緊急時の連絡や防犯には力を発揮します。しかし、毎日使用して習慣化すると「ケイタイ依存症」になってしまいます。ケイタイが手放せなくなり、ケイタイがないと落ちつかなくなります。つまり、ケイタイのない生活が考えられなくなるのです。

例えば、私の場合です。メールは電話に比べて料金が安く、ついついはまってしまいました。私の家のルールでは、ケイタイは家族への連絡、緊急時の使用、友達とのメールに限定されています。もちろん学校へは持っていくことはできません。しかし、友達から一日数十通のメールが届きます。そのメール一つ一つに返信します。返信しないと、なぜか落ち着きません。また、メールの確認と着信のチェックを必ずします。そうしないと不安で仕方がないのです。この前も外出後にケイタイを忘れたことに気づき、急いで家にとりに戻りました。

このように、ケイタイは私にとって体の一部になり手放せなくなりました。いつも無意識に着信やメールをチェックし、バイブ音に敏感になってしまっています。送信と返信を何度も繰り返し、どこでやめればいいのかわからなくなってしまい、ついつい長時間になることもあります。そのため、無駄に時間をすごしてしまうのです。親は、会ったときに話せばよいと言いますが、メールだから言えることもあると思います。

しかし冷静に振り返ってみると、知らず知らずの内にケイタイ依存症になっていることに気づきました。ケイタイが自分の生活リズムを狂わしていることはわかるのですが、やめようと思ってもなかなかやめられません。これが問題なのです。

また、ケイタイを利用する際にはマナーが大切です。ケイタイは相手の都合を考えず、いつでもどこでも発信できます。これはケイタイの良い点でもあります。しかし、そのことによって相手が大きな迷惑を受けることも考えられます。それは相手の状況を考えずに

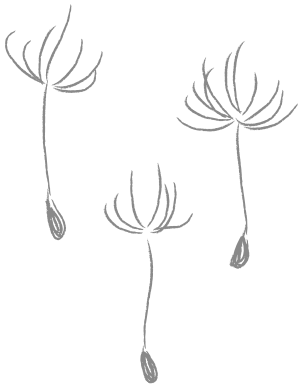
こちらの都合だけで使用するからです。

例えば、たくさん人が集まっている所で着信音がなるのは迷惑ですし、病院や精密機器の近くで使用すると命に関わることもあります。以前、大学に合格したい受験生がケイタイを不正に使いました。このようにケイタイの使い方を間違えると、自分の人生に関わる大変な問題になったり、社会問題に発展することもあります。だからこそ、ケイタイの使い方には十分注意が必要なのです。まわりに迷惑をかけない使用方法について、もっとみんなが真剣に考えることと、よいことと悪いことを判断する強い心を持つことが大切だと思います。

私は今、ケイタイ依存症を克服するために、読書の時間をとるように心がけています。また、部活のテニスを一生懸命し、ケイタイを使用する時間を短くしようとしています。さらに、家族で決められたルールを必ず守り、不必要な使用をやめました。その結果、読書が楽しみになってきました。また、友達と直接コミュニケーションをとることで、前より仲良くなれた気がしています。

今後、まだまだケイタイは進化すると考えられます。機能も充実して、いろいろなことができるようになると思いますが、それを使いこなすのが私たちです。有効活用できるかどうかは私たち次第なのです。東日本大震災でも、ケイタイによって命が助かったという報道もありました。つまり、社会に役立ってこそケイタイの存在価値があると思います。

私たちが、自分のためだけでなく、みんなのため、社会のためにもケイタイをうまく活用できるようになれば、よりよい社会になるのではないでしょうか。



●部活動や学校外活動
テニス部
●好きな科目
国語
●好きなことや好きなもの
読書
●将来の夢
アナウンサー

＊＊ 優良賞 ＊＊

今わたしがするべき事とは

熊野市立有馬中学校
三年　笹之内（ささのうち）　ゆき

「ねぇ、高校決めた？」友達との間で、こんな会話をすることが多くなった。もう三年生なんだ、という驚きと、もう受験生なんだという焦りが胸をよぎる。正直まだ、自分自身実感がわかない。だが、そんな会話を聞く度に「そろそろ真面目に考えないと。」と、思うようになってきた。今、わたしはこんな大切な時期に、何をしているのだろう。今、わたしがすべき事とは何なのだろう。

中一の時から、高校に関しての会話がない訳ではなかったが、当時は「まだ決めていない。」の、一言で済んでいったため、深く考える事もなかった。しかし、三年生にもなった今、もうそんな事は言っていられなくなったのだ。しだいに「私は○○高校へ行きたいんだ。」「○○高校に興味があるんだよね。」などと、クラスの中でも具体的な目標をもつ人がどんどん増えていった。これまで以上の焦りと不安を覚えたわたしは、家族に進路について相談してみる事にした。

「もうゆきも受験生かぁ。」父も少し驚いていたようだったが、続けてこう問いかけた。「お前の行きたいところへ行けばいいと思うけど、そもそも将来何になりたいんや？。」答える事は出来なかった。高校のこともろくに考えていないのに、将来のことなんて考えているはずがない。この時わたしは、逆に、将来の夢がないと高校を決める条件がないのだという事を親から教えてもらった。

将来何になりたいか、だなんてそう簡単に決められる事ではない。思い起こせば、幼稚園児の頃は、プリキュアになりたい、だなんて、夢のまた夢をみていたな。小学生になると、ケーキ屋さんとか、お花屋さんとか。ただただ純粋に憧れて、夢がいくつあったことだろう。そして中学生になった今、なりたいものがこれといってない。それに「これになりたい。」という考え方ではなく、「この職業に就けば、将来楽に生活できるかな。」などと自由で素直な子ども心のかけらも見られない現実に突きつけられたかのような考え方をしていた。そして、そんな自分がどこか寂しく感じられるのだった。

それからというもの、わたしは大人の人に「なぜこの職業に就こうと思ったのですか。」と、聞くようになった。すると、大体の人

が誰かから影響を受けたり、何かきっかけとなる出来事があったり、ということだった。

では、みんなのスタートラインとも言えるきっかけとは、どのようにして見つけるものなのだろうか。私にはもう時間がない。きっかけが自ら出てきてくれるのを待っている訳にはいかないんだ。かといって、道端に落ちている訳でもなければ、草原を分けいっても見つかりはしない。そう、自分でつくりだすんだ。そのために、さまざまな事に挑戦し、たくさんのことを経験する必要がある。志望校も決まっていなければ、将来の夢もない。だからといって何もしなければ、このまま何も起こらないままだ。何か行動を起こさないと。

そして、私の出した答えはこうだ。『今を一生懸命にやりぬこう。』具体的な事は決まっていなくても、今できることがあるはず。そして、夢が見つかった時のために備えよう。勉強・部活・友達関係。今、生活していることの全てを一生懸命にこなそう。経験が豊富なほど、視野も広がっていくにちがいない。そして、自分が「この職業に就きたい。」と思えるようになった時、その職業を目指せる状態にあろう。可能性を自分で潰すことだけは絶対に嫌だから。あの時もっとこうしておけば良かった、だなんて後悔したくないから。

少しは受験生という自覚がでてきたのだろうか。時間ができた日には、インターネットを利用して、職業調べを行うようになった。家族とも、将来について真剣に話し合う機会が増えた。もう「まだ決めていない。」で流す訳にはいかない。しっかりと自分の立場に向き合わなければならない。

私はもう、受験生なんだ。

●部活動や学校外活動
剣道部・生徒会
●好きな科目
数学
●好きなことや好きなもの
音楽鑑賞・ドラマ鑑賞
●将来の夢
薬剤師

＊＊ 優良賞 ＊＊

「これからの日本を支える税」

松阪市立大江中学校
三年　小塩敬介（こしおけいすけ）

最近、日本では消費税の増税問題が大きな話題となっているが、みなさんは消費税についてどんな事を知っていて、どう考えているのだろう。何も分からずに、ただ増税は悪い、と決めつけているのではないだろうか。私は、今の日本の社会を変えていくためにも、次の理由から増税をしていくべきであると思う。

第一の根拠は、実際に消費税の高い国で、成功した例があるからだ。それは、消費税五パーセントの日本に対し、二十五パーセントと、世界でも上位の消費税を誇るデンマークである。一見、消費税の数値だけを見ると、デンマークの人々は日本の五倍もの消費税を払わされ、国民からの不満がすごく多い国のように感じられる。しかし実際、デンマークの人々は高い税金を払い、負担は大きいが、そのことに不満は持っていないという。その理由は、税金の使い道にある。デンマークでは税金が高い分、大学を含めた教育機関の学費が無料、学生全員が政府から奨学金を給付されるなど、日本にはない社会保障体制等があるのだ。さらに医療費は手術代を含め無料、福祉機器も必要ある人には無料で貸与されるなど、多くの人が、さまざまな場面で自分の払った税金の使い道を知ることができ、税金の重要性を実感できているのだ。それでは、日本の税金の使い道はどうだろう。まず、日本に入ってくるお金の約四割が税金、残りのうち約五割が「公債金」といわれる、国が借りて集めたお金で賄われている。しかし、公債金は、借りたお金であるので、将来、返さなくてはならない。そこで、返済金として使われるのが税金である。ただでさえ、五パーセントという少ない消費税で集めた税金を、さらに、公債金への返済に当てるとなると、本来の税金の使い道である、交通や施設の整備、福祉や教育への援助が不十分になってしまうのは言うまでもない。その結果、日本では公立の小・中学校の教科書代、道路や住宅などの整備費で税金が使われてはいるが、やはりデンマークと比べると、まだまだ不十分な点が多いといえるだろう。

第二の根拠は、日本には多額の借金があることだ。先程、説明した、日本に入ってくるお金の約五割を占める公債金が年々増え、平

成二十三年度の時点で返さなければいけない日本の借金総額は約六百六十九兆円にも上り、大きな問題となっている。今のままの税収で返すとなると、十六年はかかるという。さらにその借金に加え、昨年三月に起きた東日本大震災の被害総額、最大二十五兆円も追加され、今や日本は大きな財政危機に直面しているのだ。一刻も早く、財源を立て直していくことこそが日本の一番の課題といえるだろう。

第三の根拠は、日本で「少子高齢化」という現象が急速に進んでいることだ。そして、二十一世紀半ばの日本では、国民の二・五人に一人が六十五歳以上の高齢者という超高齢化社会になると予測されているのだ。それでは、少子高齢化が進むことと、増税の必要性にはどのような関わりがあるのだろうか。まず、高齢者が増えることによって、それに伴い医療や年金や介護に掛かる費用が増加する。そして、今の社会保障制度のまま放置した場合、医療や年金の負担が上昇を続け、将来の世代に大きな負担を残すことになるだろう。さらに、最近では一人暮らしの高齢者も増えてきているという。今後、ますます高齢者のサポートが重要になってくるのだ。

現在、日本で増税反対を唱える人が多いのは、税金の使い道が不明確で、政府と業者に取られるという感覚があるからだろう。しかし、本来、税金を集める目的は社会を良くしていくためであり、政府のために払うのではなく、自分達のために払うものなのだ。デンマークの人々のように、日本人、一人一人がしっかりと税金の使い道を知り、その重要性を理解していけば、増税賛成の声も高まるのではないだろうか。また、政府側も、ただ増税をするのではなく、税金の有効活用と使途の明確化を実現すれば、国民の理解も高まり、さらに良い国になっていくはずだ。

今、日本は大きな課題をたくさん抱えている。それは、日本国民が協力し、増税をしていくことなしには、決して解決していかないだろう。自分達が豊かで安心して暮らせる未来を築いていくためにも、私は増税に賛成だ。

●部活動や学校外活動
卓球部・生徒会
●好きな科目
社会
●好きなことや好きなもの
絵をかくこと、卓球をすること
●将来の夢
高校教師

＊＊ 優良賞 ＊＊

非行に走る少年とその環境

津市立橋南中学校
三年　冨澤（とみざわ）　采華（あやか）

私が思う非行少年とは、それほど悪いイメージではありません。確かに煙草を吸ったり、お酒を飲んだり、法律というルールを守れないのは人として恥ずかしい事だと思います。実際、私の学校でもそういう事が起き、何度も全校集会を開き、その度に何度心の底から怒ったかわかりません。そんな人を私は絶対に許しません。許してしまったら同じ事を繰り返してしまうと思うからです。しかし、そんな人達にも意外な一面がたくさんあることを知っています。私はある男の子にとても優しくしてもらった事がありました。しかし、その子は煙草で先生に注意されていることも何度かありました。その日の彼はいつもは強がるのに、ありのままの自分を見せてくれたようでとても嬉しかったです。他にも自習の時に一生懸命ワークの問題を解いていて、

「ここの問題、教えて。」

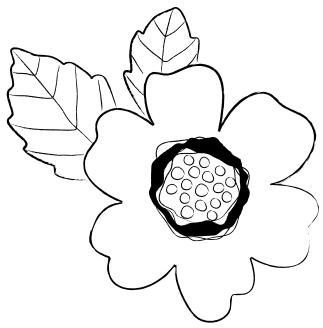
と頼ってくれた事がありました。私は真剣に教え、彼もまた一生懸命理解しようとしてくれました。ただそれだけの事なのになぜだか、とても嬉しかったです。なので私は、いけない事をしている人だから、と否定するのではなく、いけない事はいけないとはっきり言い、その人を否定する事はせず、その人と向き合っていきたいと思っています。

私は彼らのいる環境を変えていく事で、彼らが非行に走る事も少なくなり、いつかはなくなるのではないかと考えています。環境を変えるとは具体的に、クラスが楽しい、学校が楽しい、最終的には早く学校に行きたいと思ってもらう事だと考えています。煙草を吸うより楽しい事がここにはあると伝えたいです。そのためにはまず私達自身から変わらなければならないと思います。彼らと真っ正面から向き合い、ぶつかり合っていかなければならないと思っています。

私は、先日テレビで非行少年が東北にボランティアに行き、たくさんの人と出会い、様々な事を経験して、少しずつだけど変わっていく、というドキュメンタリー番組を見ました。その少年を救ったのは、一人の男性でした。その男性は少年と同じような過去があり、

だからこそ助けたいと強く思ったのではないかと思いました。その男性は少年を理解しようと正面からぶつかっていき、少年もまたそんな男性にひかれ、心を開くことができたのだと思います。それなら私達にもできます。彼らが非行に走るようになった原因は、居づらい環境を作ってしまった私達にも責任はあると思います。それならば、もう一度彼らを変えられるのも私達だと思います。ドキュメンタリー番組を見て、環境が変わるだけで、こんなに人は頑張れるんだ、変われるんだと感じました。理解してくれる人がいる事が、非行をなくすと感じます。私達、中学生でも一人ずつが気をつけて悪い事をさせない、明るく楽しい雰囲気を作っていけば、少しずつでも彼らだけでなく、学校全体が変わっていくと思います。私はドキュメンタリー番組に出てきた男性のように、彼らが学校全体が変わっていくきっかけとなり、みんなで悪い事で全校集会が開かれないような雰囲気のよい学校を目指して進んでいきたいです。煙草やお酒は大人になったら吸えるし、飲めます。でも中学校というたった三年間でしかできない事、味わえない喜びがまだまだたくさんあります。それを非行で潰してしまうのはすごくもったいないと思います。今やらなくて良い事、してはいけない事を背伸びしてやるよりも、今しかできない事をがむしゃらにやる人の方が何倍も格好いいと思うし、何よりも輝いて見えます。私はそんな生徒で溢れる学校づくり、環境づくりをしていきたいです。何事も一歩踏み出すだけで、変わっていけると私は信じています。

●部活動や学校外活動
ソフトテニス部・生徒会
●好きな科目
社会
●好きなことや好きなもの
友達や先生と話すこと
●将来の夢
教師



地域優秀賞一覧（26 名）

学　校　名	学年	性別	名　　前	タイトル
四日市市立富田中学校	3	女	前川（まえかわ）　祐美羽（ゆみは）	「やさしさのきっかけ」
四日市市立常磐中学校	2	女	土井（どい）　美奈（みな）	一人にしないで
四日市市立桜中学校	3	女	住吉（すみよし）　沙月（さつき）	絆
四日市市立桜中学校	3	女	宗像（むなかた）　美園（みその）	未来のために
暁中学校	3	女	伊藤（いとう）　藍音（あいね）	「日本が日本であるために」
鈴鹿市立平田野中学校	3	男	村井（むらい）　龍馬（りょうま）	身近にできるエコ
鈴鹿市立天栄中学校	3	女	今西（いまにし）　優果（ゆうか）	言葉の重み
鈴鹿市立天栄中学校	3	女	川居（かわい）　静花（しずか）	「自分自身で見極める」
亀山市立関中学校	2	女	中谷（なかたに）　あかり	動物を虐待すること捨てること
セントヨゼフ女子学園中学校	3	女	杉田（すぎた）　紗里奈（さりな）	私達が学べること
松阪市立鎌田中学校	2	男	片岡（かたおか）　大（だい）	原子力発電
松阪市立東部中学校	2	女	奥田（おくだ）　紫（むらさき）	ハッピースマイルメッセンジャー
松阪市立飯南中学校	3	女	谷口（たにぐち）　温美（あつみ）	震災がおきて感じたこと
三重中学校	3	女	加藤（かとう）　春奈（はるな）	私たちに必要な事
多気町松阪市学校組合立多気中学校	2	男	西浜（にしはま）　拓馬（たくま）	「東日本大震災」
大台町立協和中学校	3	男	林（はやし）　弦汰（げんた）	「親友」
鳥羽市立加茂中学校	3	女	野村（のむら）　彩帆（さほ）	父への思い
玉城町立玉城中学校	2	女	教来石（きょうらいせき）　柚希（ゆずき）	私の生き方
日生学園附属中学校	3	男	橋本（はしもと）　純平（じゅんぺい）	志
名張市立赤目中学校	3	女	水谷（みずたに）　映実里（えみり）	私の理想の未来
名張市立北中学校	2	女	本田（ほんだ）　美桜（みお）	命について
名張市立南中学校	2	女	池田（いけだ）　亜耶（あや）	一番の宝物
尾鷲市立尾鷲中学校	2	女	冨永（とみなが）　羽菜（はな）	生きる
紀北町立紀北中学校	3	男	高須（たかす）　明義（あきよし）	カンガエ
紀北町立三船中学校	3	女	疇地（あぜち）　祐月（ゆづき）	戦争が残したもの、そして私達の役目
熊野市立有馬中学校	2	女	髙田（たかだ）　真奈（まな）	「がんばれ」という言葉

（順不同）

学校奨励賞一覧（35 校）

四日市市立塩浜中学校、四日市市立富洲原中学校、四日市市立富田中学校、四日市市立保々中学校
四日市市立常磐中学校、四日市市立三重平中学校、四日市市立羽津中学校、四日市市立西朝明中学校
鈴鹿中学校、亀山市立亀山中学校、亀山市立関中学校、津市立美杉中学校
松阪市立殿町中学校、松阪市立鎌田中学校、松阪市立久保中学校、松阪市立大江中学校
松阪市立東部中学校、松阪市立三雲中学校、松阪市立飯南中学校、松阪市立飯高東中学校
松阪市立飯高西中学校、多気町松阪市学校組合立多気中学校、多気町立勢和中学校、大台町立宮川中学校
伊勢市立沼木中学校、皇學館中学校、鳥羽市立加茂中学校、伊賀市立阿山中学校
日生学園附属中学校、名張市立赤目中学校、名張市立北中学校、名張市立南中学校
尾鷲市立輪内中学校、紀北町立三船中学校、熊野市立有馬中学校

（順不同）

＊＊講　評＊＊

審査委員長　三重県教育委員会小中学校教育課　課長　鈴木（すずき）　憲（つかさ）

◆全体講評

本日は、「中学生のメッセージ２０１２」に県内七十三校、一万一千七十七点の作品の中から選ばれた十四人の皆さんに発表をしていただきました。皆さんの今日に至るまでのご努力と、本日の心温まるまた力強い発表に対して、心からの拍手を送りたいと思います。

今年は、ロンドンオリンピックが開催されました。二百四の国と地域から約一万五百人の選手が参加し、十七日間に渡って繰り広げられた熱戦は、国境を越えて、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。三重県出身の選手では、吉田沙保里選手がレスリング女子で３連覇という偉業を成し遂げました。また、二十八年ぶりに銅メダルを獲得したバレーボール女子の山口舞選手、四十四年ぶりにベスト４に進出したサッカー男子の山口蛍選手の活躍もありました。大会を通じて改めて感じたことは、目標に向かってあきらめずに努力することの尊さ、仲間を信じて力を合わせることの大切さとともに、家族の存在の大きさや地域の絆の強さです。今回のオリンピックは、私たちがこれからの生活や社会において大切にしていかなければならない視点や解決すべき課題を示してくれたように思います。

本日の皆さんのどの発表も、そうした視点や課題について、中学生らしい鋭い感性で追求したものばかりでした。身の回りの人たちとの関わりや身近な体験からの気づきをもとに、問題をとらえ、それにどう向き合い、どうすればよいのかを自ら考え、自分の言葉で豊かに語っていただきました。また、どうしたら自分の思いや考えを聴いている人に伝えることができるかを、聴いている人の立場に立ってしっかりと考え表現されていました。

さらに、何よりも大きな感動をもたらしたのは、皆さんの思いです。夢、希望、感謝、信頼、言葉、思いやり、命、学校、社会、そして未来への強い思いが、心に響くように伝わってきました。どの発表も、素晴らしいメッセージとして、本日この会場にいる全ての人の心に届けられました。

審査の結果、伊勢市立沼木中学校の山口彩華さんが最優秀賞に選ばれました。山口さんは、ある朝一緒に自転車で登校していた大切な親友を交通事故で亡くすという経験をされました。大きな衝撃と悲しみがあったことと思います。この突然の恐ろしい事故をきっかけとして、毎日のように報道される交通事故のニュースを聞くたびに、なぜ同じようなことが繰り返し起こるのだろうと考えるようになります。交通事故は人の力で防ぐことができるものである、交通事故を起こさないという気持ちを一人ひとりがしっかりと持つべきである、という力強いメッセージを発信してくれました。

三重中学校の濱田樹さんは、「大きくなったら何になりたいか」という自らの問いについての発表でした。両親が営む介護福祉施設を手伝ったとき、理学療法士である父の治療を受けたおばあさんから、「あなたのお父さんのお陰で、歩けるようになり、毎日が楽しくなった」と言われます。そこで、父の治療は、患者の身体だけでなく、心にも力を与えていることに気づきます。そして、将来の夢は父よりもすごい理学療法士になることであるという答えを持てるようになります。将来の夢について力強く発表してくれました。

セントヨゼフ女子学園中学校の田中優衣さんは、日常生活で失敗や間違いを起こしたときに素直に謝ることの大切さについて発表してくれました。友達に借りたＣＤケースを壊してしまうという出来事にぶつかり、友達にどう話すべきか迷いますが、家族との対話を通して素直に謝るという道を選択します。そして、この経験を通して、謙虚に素直に謝り誠実であることが、人との信頼と絆を深めネットワークを広げる大切なものであることに気づき、これからも誠実に行動し信頼される人になりたいと発表してくれました。

三船中学校の玉置琴音さんは、お母さんを病気で亡くされ、現在はお父さんと弟と三人で暮らしています。毎日忙しいお父さんがたまたま早く帰宅していて、「おかえり」と言ってもらえたことで、心が温かくな

り幸せな気持ちになったこと、「がんばれ」と励ましてくれたお母さんの言葉を今でも感じ励まされていることなどの経験から、人は言葉を伝えることによって言葉以外のいろいろなものが伝わり、相手も何かを感じるものであるという言葉の持つ力について発表していただきました。聴き手の心を揺さぶる発表でした。

明和中学校の辻真理奈さんは、東日本大震災により福島の原発事故が発生し大きな被害を受けている日本で、なぜ原発を再稼動させるのか疑問を投げかけています。東海地震、東南海地震、南海地震が発生する可能性やチェルノブイリ原発事故の例を取り上げて原発事故の危険性について説明しています。また、水力発電、火力発電などの発電量について調べたり、家族と協力して節電に取り組んだりしていることについても話してくれました。安全で豊かな社会づくりという大きな課題についてのしっかりとした発表でした。

一志中学校の落合沙央理さんは、わからないことがあるとすぐに人に尋ねていました。特にお父さんには多くの質問をし、丁寧な説明を受けていました。そのお父さんから「脚下照顧」という言葉を授けられ、実践として靴並べをするように言われます。靴並べの実践を通して、沙央理さんは、自己を顧みることができるようになり、相手の気持ちも考えるようになったという自分自身の変化に気付きました。小さな積み重ねにより自分の中に人として大切なものが作られていくことを確信し、その喜びを素直に発表されています。

赤目中学校の吉田奈都子さんは、東日本大震災による被災地域の復興について真剣に考え発表してくれました。とりわけ、震災がれきの処理について、受け入れ側の施設面での課題も多くなかなか進まない現実に心を痛め、社会や大人に対する批判を投げかけています。また一方では、この批判の目を自分自身にも向け、日常生活における自らの言動を見直し実行することの難しさを踏まえ、自分の言動や行動に責任を持てるような大人になりたい、周りの人を思いやって行動できる人になりたいという決意を語ってくれました。

加茂中学校の佐藤俊祐さんは、間違った言葉の使い方や敬語の使い方に視点を当て、日本語の乱れについて発表してくれました。「この料理は全然美味しかった。」という表現をよく耳にすることや、「姑息」という言葉の意味を誤って理解している人が多いことなどを例に挙げ、明快に考えを主張されました。特に、敬語の使い方の乱れについては、敬語を使う習慣まで崩れてきていることを懸念しています。そして、大切な文化である日本語を自分たちが正しく使い、守り通し、未来へ伝えていく強い思いを述べていただきました。

大池中学校の森裕希美さんは、携帯電話の長所と短所について自身の経験に基づきしっかりとした考えを発表してくれました。「ケイタイ」は緊急時の連絡や防犯には力を発揮する便利な道具であるが、使い方次第では依存症になる危険性があること、使用する際にはマナーを守る必要があることなどを示した上で、「ケイタイ」への依存を克服するための自らの実践について話してくれました。自分のためだけでなく、みんなのため社会のために「ケイタイ」をうまく活用していきたいという主張はたいへん頼もしく感じました。

有馬中学校の笹之内ゆきさんは、受験という人生の岐路に立ち、自分の進むべき道を一生懸命に探している姿をありのままに表現してくれました。「自分は将来何になりたいのか」という問いに向き合い、家族や大人の人たちとの対話を通してたどり着いた答えは、「今を一生懸命にやりぬこう」です。勉強、部活、友達関係など今の生活全てに専心するということです。これからの人生においても、「今わたしがするべき事とは」と問う場面が訪れることと思いますが、この経験を大切にして力強く歩みを進めていってください。

セントヨゼフ女子学園中学校の西村望夢さんは、学校をあげての継続的なボランティア活動を通して、人の役に立つことに喜びを感じ、自分に自信を持つようになり、さらに、将来の夢までも見つけるという大きな成長の喜びを得た経験を発表してくれました。特に、東日本大震災直後から自分たちにできる支援を実行に移す行動力には感心しました。岩手県山田町の保育園との交流は、望夢さんのボランティア活動に対する意識の変化や心の成長に大きく関わっており、人と人との心のつながりの大切さを感じる発表でした。

大江中学校の小塩敬介さんは、今、日本で大きな問題となっている「消費税の増税問題」について、「消費税の高い国デンマークでの成功例」、「公債の返済や震災被害への対応のための財源確保」、「少子高齢化に伴う社会保障制度等の充実の必要性」と三つの根拠を挙げ、「増税賛成」の意見を明確に堂々と語ってくれました。豊かで安心して暮らせる未来を築くという観点で、消費税という難しい課題についてしっかり調べ、自分の問題として真正面から考え判断する姿勢には、次世代の担い

手としての頼もしさを感じました。

橋南中学校の冨澤采華さんは、自分の学校には非行を行う生徒もいるが、同じ学校の仲間として共に楽しく生活できるような学校を作っていきたいという思いを発表してくれました。法律を守らないという行為は絶対に許さないとする一方で、行為のみをとらえて否定的に接するのではなく楽しむときは一緒に楽しみたい、学校には楽しいことがたくさんあることを伝えたいと言っています。今しかできないことに全力で取り組む、そんな生徒であふれる学校を作りたいという思いが伝わってくる、優しさを感じる発表でした。

中部中学校の堀木和奈さんは、保育士になるという将来の夢について語っていただきました。きっかけは好きだった先生への憧れでしたが、いじめによる自殺のニュースを見る中で、保育園などに通う小さな時からいじめの原点が始まっていること、その頃から色々な人との関わりを学ぶことが大切であることを知り、責任の重さを実感し、保育士になりたいという思いを一層強くしました。立派な保育士になるため、違いや個性を受け入れ認めることができる大きな心を持った人になりたいという希望に満ちた発表でした。

さて、今回の大会では、十四人の発表者の皆さんそれぞれが着目したテーマに多様性がありました。「将来の夢について」、「自分自身のこれからの生き方について」、「身近で起こっている問題について」、「社会的な大きな問題について」など様々なテーマに真正面から向き合い、中学時代にしか持ち得ない純粋で鋭い感性に基づく素晴らしいメッセージを発信していただきました。

また、いずれの主張にも「言葉」の持つ意味や力、価値などへの気づきが感じられました。人と人は言葉によって思いや考えを伝え合い、心を通わせることができます。一人ひとりが、自分を表現し、考えを深め、互いを理解し合うことによって、人は力を合わせて生きていくことができます。また、表現することには、自分の考えが深まり広がるという実感や、人との関わりにおいて問題を解決することができる喜びがあります。さらに、言葉は豊かな感性の源でもあります。

こうした意味で、言葉を大切にし、自らの意見や考えを発表できるこのような場があり、そこに皆さんが参加された意義は大変大きいものです。今後の生活の様々な場面において、皆さんの鋭い感性と素直な気持ちを大切にし、物事をじっくりと見つめ、真実や正義についてしっかりと考えていただきたいと思います。そして、これからも自信を持って自らの思いや考えを周りに発信していってください。

今後、皆さんがそれぞれの学校で大いに活躍されますこと、自らの夢、目標の実現に向けてますます努力されますことを期待して、講評といたします。

◆最優秀賞講評

中学生のメッセージ２０１２（第三十四回少年の主張三重県大会）で、伊勢市立沼木中学校の山口彩華さんが、題名「交通事故を起こさない」で最優秀賞を受賞されました。

「私は去年、大切な親友を交通事故で失いました。それは、本当に突然のことでした。」この言葉で山口さんの発表は始まりました。いつもと同じように一緒に自転車で登校していた親友が、学校の近くまで来たとき、「先に行くわ。」と元気な声を残して走って行ったすぐ後の出来事。たった今まで傍にいた大切な親友を、かけがえのない命を、ある朝突然失った大きな衝撃と悲しみ。会場の誰もが、その気持ちを共感し、息をのんで山口さんの発表に引きつけられていきました。

突然の恐ろしい事故で大切な親友を失ってから、山口さんは、毎日のように報道される交通事故のニュースを聞くたびに、「なぜ同じようなことが繰り返し起こるのだろう。気を付ければなくなっていくものではないのだろうか。」と考えるようになります。「なぜ人は気を付けようという意識をなくしてしまうのか。」「飲酒運転をする人がいるのはなぜか。」悲しい経験は、山口さんに様々な疑問や気づきをもたらしました。

そして、「交通事故は人の力でなくせるものである。少なくともスピードの出し過ぎや飲酒運転などによる事故は防ぐことができる。」「そのためには、一人ひとりが、交通事故は他人事ではないという意識を持つことが必要である。」「自分は事故を起こさないという気持ちをしっかり持つべきである。」と力強く語ってくれました。

山口さんは、「交通事故を起こさない」というテーマについて、自らの経験に基づいて中学生らしい鋭い感性で捉え、現実の社会問題を自分自身の問題として考え、豊かに表現されました。聴き手に深い共感と感銘を与えるとともに、私たち一人ひとりが意識すべき問題として、また社会全体で解決すべき問題として主張されたことが今回の受賞につながりました。おめでとうございます。

中学生のメッセージ 2012（第 34 回少年の主張三重県大会）実施要項

1．目　的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

2．主　催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

3．共　催

三重県

4．協　力

松阪市青少年育成市民会議・多気町青少年育成町民会議
明和町青少年育成町民の会・大台町青少年健全育成推進協議会

5．後　援

三重県教育委員会・松阪市教育委員会・多気町教育委員会・多気町松阪市学校組合教育委員会
明和町教育委員会・大台町教育委員会・三重県小中学校長会・三重県 PTA 連合会・三重県私学協会
三重県教職員組合・NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社

6．大　会

期　日　　平成 24 年 8 月 26 日（日）
場　所　　松阪市民文化会館（松阪市川井町 690）

7．応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの。
※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成 23 年度在籍の 3 年生は応募できません。

8．応募内容

① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。
③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動､大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

9．応募方法

（1）1 人 1 点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

（2）原稿用紙記入方法

・A4 版 400 字詰め原稿用紙 3 枚半以上 4 枚半以下で縦書きに清書してください。枚数不足や枚数超過については、審査対象外となるのでご注意ください。なお、大会での発表時間は 5 分程度となります。
・コピーではなく、本人直筆による原本（ワープロ不可・但し障がい等による場合は可）にしてください。
・原稿用紙には HB 以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため、濃さについては厳守してください。）
・原則的に 1 行目にタイトル、2 行目に県名・学校名・学年・名前、3 行目に発表者の名前、4 行目以降に本文という書式にしてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。
・原稿用紙（様式）は別紙 1 を参照してください。コピーをして記入していただくことも可能です。

（3）各学校等において 3 点以内に選考し、応募作品一覧（別紙 2）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

（4）提出先・提出期限

・各中学校等は、6 月 8 日（金）までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、6 月 13 日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
・市町民会議の連絡先については、別紙 3 を参照してください。

10. 地域優秀作品選考会

地域優秀作品選考会は育成財団で行い、提出された作品の中から 40 人程度を選考します。

11. 中央審査会

中央審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する 14 人と地域優秀者 20 人程度を選考します。なお､発表者へは 7 月上旬に連絡します。

12.「中学生のメッセージ」における発表及び審査

（1）大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。

＜発表方法について＞
三重県大会では、作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（例えば、写真を使用したパネル説明や液晶プロジェクター等を使って映像を写し出す発表や服装は自由とし､小道具を使うなど）を取り入れてもよいこととします。なお、機材等の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

（2）大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会が審査を行い、各賞を決定します。

（3）審査基準は以下の通りです。

【論旨】
① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】
① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】
① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

13.「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者（中部・近畿ブロック審査応募作品）として推薦します。ブロック代表者（各ブロック２～３人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

14. 表彰

県大会の審査委員会で審査のうえ､「最優秀賞」（1 人)､「優秀賞」（3 人)､「優良賞」（10 人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。また、大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。また、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の 50% 以上とする）に「学校奨励賞」として賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

15. 問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒 515 － 0054　松阪市立野町 1291　みえこどもの城内
TEL：0598 － 22 － 4911　FAX：0598 － 23 － 7792　E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

16. その他

（1）応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。

（2）大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞)、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。

（3）大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

（4）当事業に対して協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体には広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

審査基準

【論旨】
① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
② 新しい情報や視点があるか。
③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】
① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
② 説得力のある話し方であるか。
③ 話し振りに熱意と迫力があるか。

【態度】
① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

審査委員一覧

名　前	所　属
鈴　木　　憲	三重県教育委員会小中学校教育課 課長 【審査委員長】
石　井　紀　髙	三重県健康福祉部子ども・家庭局 子どもの育ち推進課 副課長
瀬　古　久美子	三重県小中学校長会 副会長　松阪市立大江中学校 校長
中　山　耕　一	三重県ＰＴＡ連合会 前副会長
山　形　達　哉	三重県私学協会　皇學館中学校 教諭
大　西　義　人	三重県教職員組合 中央執行副委員長
久　世　　勲	松阪市青少年育成市民会議 会長
中　瀬　正　実	明和町青少年育成町民の会 会長
水　元　　正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長

（順不同・敬称略）

▲ 審査会の様子

応募数・審査経過

地域名	参加校数 （取り組まれた学校）	参加者数 （作文を書いた人数）	地域提出数 （学校選抜後）	地域優秀作品数 （財団選抜後）	大会発表者数 （財団選抜後）
北勢	27	4,734	67	10	1
津	8	373	19	5	4
松阪	19	3,502	55	10	4
南勢志摩	6	290	15	4	2
伊賀	5	1,560	15	5	1
紀北	6	290	13	4	1
紀南	2	328	4	2	1
計	73	11,077	188	40	14

中学生のメッセージ 2012 の会場となった
松阪市民文化会館

大会写真

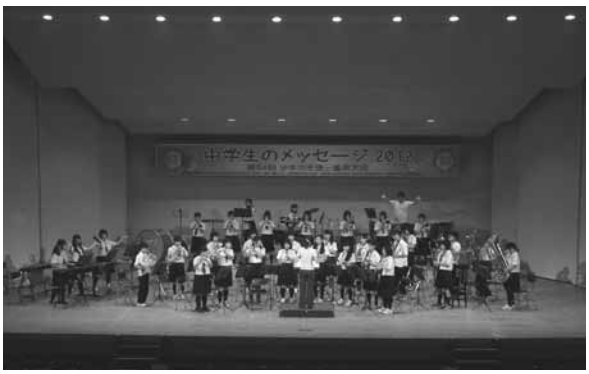
松阪市教育委員会
森　幹生　事務局長による歓迎あいさつ

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
太田　栄子　理事長による開会あいさつ

＜それぞれの主張を訴える発表者＞

司会者の様子

熱心に聴き入る観客の様子



＜松阪市立鎌田中学校吹奏楽部による実践発表＞

発表者控室の様子

受付の様子

鈴木審査委員長の講評

表彰式の様子

運営協力中学生の皆さん

最優秀賞を受賞した山口彩華さん

【少年の主張全国大会～わたしの主張２０１２～　内閣総理大臣賞】

リアルに人とつながるということ

千葉県立千葉中学校
三年　山本（やまもと）　恭輔（きょうすけ）

この十五年間で、世界は大きく変わりました。僕達が生まれた一九九七年、インターネットエクスプローラーが登場しました。それから、Google、Skype、ブログ、Facebook、Youtube、Twitter、iPhone、Android、iPad等、とても身近なこれらのものは全て、僕達が生まれる前には無かったものなのです。僕達中学生は、生まれた時から、デジタル技術の素晴らしさをたくさん体験してきました。そして今、デジタルの力を利用すれば、世界中の誰とでもつながれる世の中になりました。

僕は幼稚園の頃からＣＧに興味があり、千葉中のゼミでは、社会の様々な分野のデジタル技術について研究しています。昨年の夏、インターネットで、ある新聞記事を見つけました。医療現場で使われ始めた新しい技術についての記事です。その技術とは、医療用ＣＴのスライス画像を、パソコン上で積み上げて三次元のＣＧを構築し、さらにそのデータから、３Ｄプリンターを使って、身体の中が透けて見える立体模型を造るというものです。

僕はその技術に大変興味を持ち、もっと詳しく知りたくなりました。そこで、その技術の開発者である神戸大学の杉本先生にメールを送り、質問しました。そうしたところ、僕が本気で質問していることが伝わり、先生も真剣に答えて下さいました。そしてその後、東京で先生の講演があることを知り、僕は思い切って自分の足で、先生に直接会いに行きました。そんな僕を先生は快く受け入れて下さり、講演終了後に三時間もお話しさせていただくことができました。その中で僕が、ＣＴから３Ｄの模型を造るこの技術にとても興味があり、医療だけでなく僕達が受けている教育にも活用したいという思いを伝えたところ、先生は「君の身体の模型を造ることもできるよ。」と話して下さいました。そして、その後に出会った多くの方々の協力を得て、実際に僕のＣＴを撮影し、３Ｄプリンターで造形した僕の身体の四十パーセントの模型を、プレゼントしていただいたのです。

僕が、勇気を出して先生に直接会いに行き、リアルにつながった

ことで、僕の熱意が伝わり、一つの夢がカタチになったのです。そして、自分の模型を手にしたことで、僕には、また次の夢が出来ました。それは、誰もが自分自身の身体の中を手にとって見ることで、健康や命について向き合える世の中にしたいという夢です。僕はこの時、夢というものは、一つ叶うと、また次の夢が生まれるものだということも実感しました。

それからの僕は、以前よりもっと積極的に人とつながることを大切にするようになりました。プレゼンテーションもその一つです。「僕の模型で、命の尊さを伝えたい」という自分の思いを、たくさんの人の前で直接言葉にして伝えると、必ず聞いてくれた人達からのフィールドバックがあり、また新たな出会いや、新しいつながりができました。

今僕は、両親や学校の先生方だけでなく、様々な分野のたくさんの大人の人に支えられ見守られています。きっかけは、たった一通のメールと、直接会いに行ったこと。リアルにつながることによって得られるものの素晴らしさを知りました。

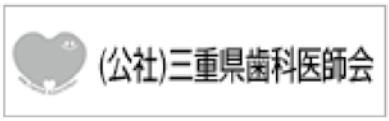
だから皆さんも自分のやりたいことに近いことを専門的に研究されている人と、是非つながってみてはいかがでしょうか。それも、デジタルではなくリアルに。

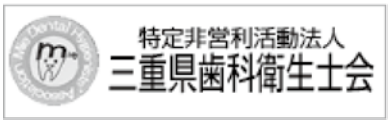
僕は今回の経験で、世の中には、中学生の僕達を心から応援してくれる大人がたくさんいることを知りました。彼らは、僕達が興味を持てば、喜んで手を貸してくれるはずです。

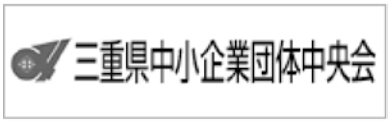
今、僕達は、デジタルの力で、世界中の誰とでも簡単につながれるようになりました。だから、最初はメールで良いのです。こんな便利なツールを利用しない手はありません。しかし、それはあくまできっかけにすぎません。実際に会って話さないと、信頼関係は生まれないのです。例えば質問の答えは分かっても、その先の広がりはありません。目と目、心と心が通じ合ってこそ、人と人が本当につながれるのです。そしてそこからまた、新しい出会いや発見が生まれるのです。新しい人の輪も広がるのです。リアルもリアルでないと得られないものがたくさんあります。だから、たくさんの人に直接会いに行くべきなのです。デジタルの世界だけに、どっぷりつかっていてはいけないのです。

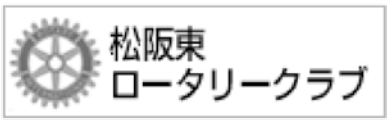
「二〇二五年までに人々は完全にデジタルの中に入るだろう。」と言ったのは、マイクロソフトのゴードン・ベル博士です。しかしいくらデジタル化が進んでも、リアルに人とつながるという価値は、絶対に薄れません。僕は確信してします。デジタル化が進むこの世の中だからこそ、リアルなつながりを持つことの大切さを、もう一度考え直すべきではないでしょうか。

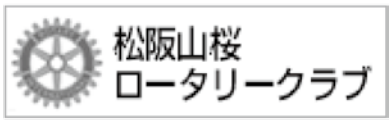
協賛企業・団体紹介　※順不同

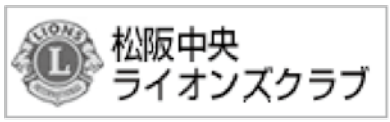


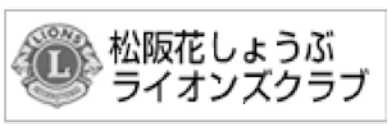












本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

中学生のメッセージ 2012
（第 34 回少年の主張三重県大会）
発　表　作　品　集
平成 25 年 1 月発行
公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒 515-0054
三重県松阪市立野町 1291　みえこどもの城内
TEL 0598-22-4911
FAX 0598-23-7792
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

毎月第3日曜日は「家庭の日」

家族のふれあいを大切にしましょう！

平成 24 年度「家庭の日」絵画・ポスター展

＜知事賞受賞作品＞

◆児童の部

「おじいちゃんのお誕生日」

松阪市立阿坂小学校　6 年　佐波（さば）　美来（みらい）さん

◆生徒の部

「みんなとすごそう家庭の日」

セントヨゼフ女子学園中学校　3 年　舩木（ふなき）　晶帆（あきほ）さん